

NOVAホールディングス 日経MJ(11月8日)に掲載されました。

「専門学校(語学・資格・パソコン)・カルチャー教室の売上高ランキング」
 昨年に引き続き、NOVAホールディングスは**連続1位にランキング**されました。(前年度比9.4%の伸び率)

英語熱の高まり追い風

専門学校(語学・資格・パソコン)・カルチャー教室 1.8%

順位	社名	本社	売上高 (百万円)	前年度 比伸び 率(%)	決算 月
1	※NOVAホールディングス (NOVA、EC)	東京GF	29,626	9.4	11
2	ヒューマンアカデミー	東京	19,042	▲3.7	3
3	ニチイ学館	東京GF	16,251	▲4.3	3
4	TAC	東京	12,302	0.6	3
5	NHK文化センター	東京	7,063	▲1.4	3
6	カルチャー	神奈川	6,908	▲2.6	2
7	セブカルチャーネットワーク (池袋CC、セブCC)	東京	3,666	▲1.7	2
8	朝日カルチャーセンター	東京	3,498	▲4.4	3
9	読売・日本テレビ文化センター (よみうりカルチャー)	東京	3,423	▲3.1	3
10	東京急行電鉄(東急セミナーBE)	東京	971	▲1.3	3
11	ヴォーグ学園	東京	852	4.2	9
12	道新文化センター	北海道	808	▲2.9	3
13	近鉄百貨店(近鉄文化サロン)	大阪	769	▲1.4	2
14	神戸新聞文化センター	兵庫	607	▲3.5	3
15	静岡朝日テレビカルチャー	静岡	434	7.7	3
16	東武カルチャ (東武カルチャースクール)	東京	261	▲10.3	2

【専門学校(語学・資格・パソコン)・カルチャー教室】語学や資格の習得を目的とした専門学校の運営企業、および全国民間カルチャー事業協議会会員などの有力企業が対象。NOVAホールディングスは売上高に学習塾・予備校を含む

専門学校(語学・資格・パソコン)・カルチャー教室(東京・港)の高まりを受けて、子ども会人向けの教育事業が伸びたほか、日本語学校の在校生数が15年度比で37%増。2年連続のプラスとなった。インバウンド需要の拡大や2020年度に英会話教室のニーズが拡大した。資格取得を支援する専門学校や出版会社の売り上げも伸びた。首位のNOVAホールディングスは9.4%増だった。2位はヒューマンアカデミーが1.7%増、3位はニチイ学館が0.6%増、4位はTACが0.6%増、5位はNHK文化センターが1.4%減、6位はカルチャーが2.6%減、7位はセブカルチャーネットワークが1.7%減、8位は朝日カルチャーセンターが4.4%減、9位は読売・日本テレビ文化センターが3.1%減、10位は東京急行電鉄が1.3%減、11位はヴォーグ学園が4.2%増、12位は道新文化センターが2.9%減、13位は近鉄百貨店が1.4%減、14位は神戸新聞文化センターが3.5%減、15位は静岡朝日テレビカルチャーが7.7%増、16位は東武カルチャースクールが10.3%減だった。

前回はプラスだった「通しは慎重論が強い。客数については1年前と比べ、マイナスイメージが響き、授業料の値上げが響き、一部の増収が目立つも、今後の見込みは慎重論が強い。客数は4.3%減と、減った」と減った。教室内「GABA」と「COCO塾」の不振が響き、授業料の値上げが響き、一部の増収が目立つも、今後の見込みは慎重論が強い。客数は4.3%減と、減った」と減った。



日経MJ 2017年11月8日